

## 21 キャリアガイダンス

吉田隆江

### 1 目標達成

- (1) キャリアガイダンス，カリキュラムについて理解する。
- (2) キャリア教育について理解する。
- (3) キャリアガイダンス&カウンセリングについて理解する。
- (4) 育てるカウンセリングとキャリアSGEについて理解する。

#### 【キーワード】

キャリアガイダンス，カリキュラム，キャリア教育・キャリアガイダンス&カウンセリング，育てるカウンセリング，キャリアSGE

### 2 キャリア (career) とは何か

キャリアガイダンスを考えるにあたって，その言葉の意味を把握しておきたい。「キャリア」の概念の歴史的変遷の分析を川喜多（2005）に見出した渡辺の指摘は興味深い。「ラテン語のcarrus(車輪の付いた乗り物)を語源とし，それが後にイタリア語(carriera)，フランス語(carriere)となってレースコースを意味し，その後16世紀にイギリスに輸入されて新たに「フルスピードで馬を走らせてかける」「突撃する」という意味をもつようになる。・・・17，18世紀には単に急速であるだけでなく，さらに他から抑制されることのない動きをさすようになる。それが権力への階段への上へ上への道を意味するようになった。(p8)」とある。キャリアが自己の前にできるものではなく，その人の生き様そのものの中にあるのだということが語源からも理解できる。

実際的には，中央教育審議会が平成23年1月の答申の中で「人が，生涯の中で様々な役割を果たす過程で，自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ね」が「キャリア」の意味するところだと定義している。

### 3 ガイダンス (guidance) とは何か

ガイダンスとは，主に学生・生徒の自己実現，自己コントロール，自己管理を目

的とする教育活動，一般に生活指導，生徒指導と訳される。現在社会一般では①指導。特に，不慣れで事情のわからないものに対して，初歩的な説明をすること。案内。手引。また，そのための催し。例：「入学ガイダンス」「新入生ガイダンス」②生活・学習面のあらゆる面にわたり，生徒が自己の能力や個性を最大限に発揮できるように助言・指導をすること。例：「学習ガイダンス」「ガイダンス型生徒指導」③進路や行動の方針の選択・決定にあたり，助言・援助すること。例：「キャリアガイダンス」「コース選択ガイダンス」「就職ガイダンス」などという意味で使われている。これらを踏まえて，次にキャリアガイダンスについて考えてみたい。

#### 4 キャリアガイダンス (career guidance) とは

キャリアガイダンスの定義は，各省によって，違いがある。以下がそれである。

- 児童・生徒・学生に対する進路指導（文部科学省）
- 求職者に対する職業指導，ニートなどの若者への進路指導（厚生労働省）
- 従業員のキャリア形成のための教育・訓練（経済産業省）

進路指導，職業指導，従業員のキャリア形成という視点で，それぞれ定義されている。これらの使い方も認識しておく必要があるだろう。学校教育の中では以下，文科省の基本的性格を挙げておこう。

- キャリアガイダンスの基本的性格（文部科学省，1994）
  - ① キャリアガイダンスは，生徒自らの生き方についての指導・援助である。
  - ② キャリアガイダンスは，個々の生徒の職業的発達を促進する教育活動である。
  - ③ キャリアガイダンスは，一人一人の生徒を大切にし，その可能性を伸長する教育活動である。
  - ④ キャリアガイダンスは，生徒の入学当初から毎学年，計画的，組織的，系統的に行われる教育活動である。
  - ⑤ キャリアガイダンスは，家庭・地域社会・関係諸機関等との連携，協力がとくに必要とされる教育活動である。

#### 5 キャリアガイダンス・カリキュラムとは何か

ガイダンス・カリキュラムとは，「明確な教育目標と構造化されたカリキュラムによって構成されたすべての子どもを対象とした開発的・予防的なインストラクショナル（教授）プログラムである」（八並，2008）と定義されている。カリキュラムとは「学校の教育目標を達成するために，児童・生徒の発達段階や学習能力に応じて，順序だてて編成した教育内容の計画。教育課程。」（大辞林）のことである。これをもとに考えるに，キャリアガイダンス・カリキュラムとは「児童・生徒・学生に対するキャリア教育に関して明確な教育目標をもって構造化されたカリキュラムによって構成された，すべての児童・生徒・学生を対象にした開発的・予防的な

キャリアプログラムである」と定義できよう。つまり、キャリア教育を、構造化されたプログラムを用いて意図的・計画的に、すべての児童・生徒に対して実施していくための計画書なのである。

## 6 なぜ、キャリアガイダンス・カリキュラムが必要なのか

教育課程の中に組み込まれることによって、意図的・計画的に行うことができるからという理由に尽きる。それは、すべての児童生徒の利益につながることである。後半にその実践例を紹介するが、今後さらに実践校が増えることが求められる時代になるだろう。キャリアガイダンス・カリキュラムの作成にあたって、その中心概念である「キャリア教育」について考えてみたい。

### (1) 「キャリア教育」とは何か

キャリアガイダンス・カリキュラムの中核をなすのは「キャリア教育」（中心はキャリア発達，社会的発達）であろう。まず，日本におけるキャリア教育の歴史を概観しておく。キャリア教育という言葉は中央教育審議会答申「初等教育と高等教育の接続の改善について」（1999年12月）の中で初めて使われた。その前年1998年3月には文部省委託研究「職業教育および進路指導に関する基礎的研究（報告書）」の報告があり，それに続いて国立教育政策研究所による「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進（報告書）」（2002年10月），文部科学省によるキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）（2004年1月），ならびに青少年育成推進本部キャリア教育等推進会議による「キャリア教育推進プラン（提言）」（2007年5月）などの答申や報告，提言があいついで公表された（仙崎，2008）。更に平成23年1月に中央教育審議会から答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が出され，キャリア教育の10年を統括・修正している。

「進路指導」から「キャリア教育」になった背景，また，教育界だけではなく，産業界にまで広がってきたのには「①学校から社会への移行にかかわる諸問題の表面化～職業環境の激変，若者自身の進路・職業行動の変質。②児童生徒の生活意識，意欲や資質の変容～社会的自立精神の立ち遅れ，意思決定を先送りするモラトリアム傾向の拡大などへの危機的認識の一般化が，その根底にあったからだ」（p26）と仙崎が指摘している。現在の社会構造が変化して，多くの若者が働けなくなっている現状がある。つまり，今までの「進路指導」としての「出口指導」だけではなく「どのように生きるのか」といったことが重視されるということだ。「キャリア教育」は，今後の日本を支えていくべく若者の教育として，社会から要請されているのだということを教師は再認識しなければならないだろう。

キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議は「キャリア」を「個々が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と定義している。私たちは「教員」として

の自分もいるが、家では母であり父であり、また妻であり夫である、ということがある。それらの役割がどのように自分自身と働くこととの間にその意味を見出していくのだろうか。その連続が「キャリア」なのである。つまり、シャイン,Eが「生涯を通しての人間の生き方・表現である」と定義したように、「キャリア」は人間の生き様を表現していくものなのである。

では「キャリア教育」とは何か。キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）（2004年1月）では、キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」としてとした。特に「初等中等教育におけるキャリア教育の推進」が強調された。今まで小学校では希薄だったキャリアに関する指導を今後は積極的に推進しなければならないことを、理解する必要がある。更に、中央教育審議会（答申）（2011年1月）では「一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と新たに定義している。

## (2) いままでの「進路指導」との違いは？

キャリア教育は、「学校と社会および学校間の円滑な接続を図るため」のものであり、最終的な目標は「主体的に進路を選択する能力・態度を育成する」ことであり、本来の進路指導と同義と考えてよい。しかし、その進路指導は、「偏差値指導」「進学指導」になってしまっていた。本来の進路指導を取り戻そうという意味でリニューアルしたのが「キャリア教育」だと三村（2004）は言っている。小学校からのキャリア教育が位置づけられたところは、いままでの進路指導を超えるところであるのは大事な視点である。

しかし、渡辺（2009）はいままでの進路指導をリニューアルしただけではない。国の緊急事態なのだと強く指摘していることは興味深い。キャリア教育のベースのあるものは「自立した社会人を育てることは個人にとっても社会にとっても重要な緊急課題」という社会の要請に応えることを究極的な目標としているのだと、述べている。

学習指導要領の改訂から（平成10年、11年）から見ると、中学校・高等学校の学習指導要領が改訂され、生き方の教育・指導としていっそう重視されるようになった。

〔中学校・高等学校学習指導要領総則から〕

「生徒が（適切な各教科・科目や類型を選択し）学校や学級（ホームルーム）での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンス機能の充実を図ること。」

〔小学校・中学校・高等学校学習指導要領・総合的な学習の時間のねらい（2）から〕

「自己の（在り方）生き方を考えることができるようにすること」

[高等学校学習指導要領・総合的な学習の時間の活動の一つとして]

「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」

[小学校学習指導要領・特別活動の部分から]

「学級活動などにおいて、児童自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること」・・・小学校における生き方教育（キャリア教育）  
これらを学校教育に携わるものは、意識した取り組みが求められている。

## 7 キャリアガイダンス&カウンセリングとは

キャリアガイダンス・カリキュラムでは、「キャリアガイダンス&カウンセリング」という視点も欠かせない。片野は、キャリアガイダンス&カウンセリングを次のように定義している。「言語的及び非言語的コミュニケーションを通じて、自分の生き方・表現を援助する様態の援助過程である。」具体的には①何が好きか（好み・興味関心）②何がしたいか（欲求・価値観）③何ができるか（能力）④どんな働き方をしたいか⑤どんな暮らし方をしたいか、を考えることだと言っている。進路決定のプロセスは、①自己理解 ②職業理解 ③ 啓発的経験 ④カウンセリング ⑤進路決定・職業選択 ⑥ 適応とフォローアップである。これらのプロセスが、学校教育の中で、「明確な教育目標と構造化されたカリキュラムによって構成された」ものとして組み込まれたものが、キャリアガイダンス・カリキュラムと言える。すべての子どもを対象とした開発的・予防的なキャリア教育である。

文科省は2006年11月に、キャリア教育において身につけさせる力として4領域8能力（人間関係形成能力[自他の理解能力，コミュニケーション能力]・情報活用能力[情報収集・探索能力，職業理解能力]・将来設計能力[役割把握・認識能力，計画実行能力]・意志決定能力[選択能力，課題解決能力])を示した。2011年1月，中央教育審議会は，今までの実践の問題点として，「勤労観・職業観の育成」のみに焦点が絞られてしまったことを挙げ，「社会的・職業的自立のために必要な能力の育成」がやや軽視されたと指摘した。それを踏まえて，「基礎的・汎用的能力」と改め，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育成することを提案している。このポイントは「分野や職種にかかわらず，社会的・職業的に自立するための必要な基礎となる能力」の育成であるということである。

このように変化があったが，これらはすべて「能力」であるということは共通である。児童・生徒・学生自身が自分でできるようになることを求めていると理解する。ゆえに，キャリア教育を進めていくにあたっては，体験的なプログラムの構成が必要だということ肝に銘じたい。

## 8 キャリアガイダンス&カウンセリングの基礎理論

キャリアガイダンス&カウンセリングを進めるにあたって、その基礎になるキャリア理論は学んでおく必要がある。ここでは学校教育の実践に直接活用できる理論（三村，p 37～51，2004）の骨子を引用させていただきながら示したい。さらに詳しい学びをしてくれることを期待している。

### (1) パーソンズによる職業選択理論

キャリア教育の理論の始まりは、その創始者であるパーソンズによる職業選択理論である。職業選択において、個人の特性と職業の特徴を適合させるというもので、やがて差異心理学と融合して特性・因子理論（マッチング理論）が生まれた。パーソンズは職業選択には以下の3つが必要であるとしている。

- ① 自分自身、自己の適性、能力、希望、資質、限界、その他の諸特性を明確に理解すること。
- ② さまざまな職業や仕事に関して、その仕事に求められる資質、成功の条件、有利な点と不利な点、報酬、就職の機会、将来性などについての知識を得ること。
- ③ 上記の2つの関係について、合理的な推論を行い、マッチングすること。

### (2) スーパーの職業発達理論

職業を選択する人間のもつ可能性である発達に注目したのが、スーパー（Super, D, E）の職業発達理論である。

- ① 個人は多様な可能性をもっており、さまざまな職業に向かうことができる。
- ② 職業発達は、個人の全人的な発達の一つの側面であり、他の知的発達、情緒的発達、社会的発達などと同様、発達の一般原則に従うものである。
- ③ 職業的発達の中核となるのは、自己概念である。職業的発達過程は、自己概念を発達させ、それが職業を通して実現していくことを目指した漸進的、継続的、非可逆的なプロセスであり、かつ、妥協と統合の過程である。

スーパーは「人は役割や職業を通し自己概念を明らかにしていく」としている。日本のキャリア教育の根幹をなすものでもある。その後、自らの考えを発展させて職業発達の12の命題（1957）、職業適合性（1969）、職業的な発達段階（1974）、個のライフステージを図示したライフ・キャリア・レインボー（1986）を提示し、自らの考えを発展させていった。

### (3) ホランドの職業的パーソナリティ理論

ホランド（Holland, J. L.）の職業的パーソナリティ理論は「職業レディネス・テスト（編著者日本労働研究機構、現在の日本労働政策研修・研究機構、発行所社団法人雇用問題研究所）の背景となっている理論である。人の行動はその人の持つ「パーソナリティ」とそれを発揮できる「環境」により生み出されるという考え方からできている。

[ホルランドがあげた6つのパーソナリティ]

R：現実的 (Realistic)

もの、機械または動物などを対象とする具体的で実際的な仕事 (役割)

I：研究的 (Investigative)

研究や調査などにより未知なことをあきらかにしようとする仕事 (役割)

A：芸術的 (Artistic)

独創的で美的感覚を求められる芸術的な仕事 (役割)

S：社会的 (Social)

人に接したり奉仕したりする対人関係を通して行う仕事 (役割)

E：企業的 (Enterprising)

企画や組織運営、経営などリーダーシップを求められる仕事 (役割)

C：慣習的 (Conventional)

方法が決められた事柄を着実にこなし成果がみとめられる仕事 (役割)

この理論と「職業レディネス・テスト」は実践的である。キャリアガイダンスの中に組み入れることができるものと思われる。

#### (4) 先輩体験談や職業人講話に役立つ社会的学習理論

卒業生を招いたり、社会人を招いて講話をしてもらうなどするのは、キャリア教育の定番ともいえる取り組みである。これは社会学習理論で説明できる。この理論はバンデューラ (Bandura, A.) によって唱えられた。社会的学習とは「自己以外の情報」を観察 (間接的体験) によって学習 (モデリング) する過程をさしている。

モデリングの過程は「注意→保持→運動再生→動機付け」をたどるとされている。

「注意」過程では周りにある無数の情報の中から選択的にあるものを選び出す。「保持」過程では、選択された情報を記憶にとどめる。「運動再生」過程では、保持された情報を行動によって再生する。「動機づけ」過程では最終的に学習した情報を実行に移すかどうかを決定する。この過程は、先の講話の過程に当てはめることができるのである。

『職業選択行動は、学習の結果であって、過去に起こった出来事と将来起こるかもしれない出来事を、結びつけて解釈した結果である。』という考え方は、キャリア教育の「学習」という側面を後押ししてくれるものだろう。

#### (5) 「やる気」につながる自己効力感

バンデューラー (1977) はさらに社会的学習理論において、学習した情報を実行に移すかどうかの鍵は「その情報がうまくできるかとの予測」であると考えた。これが自己効力である。自己効力とは、課題を自分の力で効果的に処理できるという信念のことで、「成功体験」「言葉による励まし」「モデリング」「情緒的によい雰囲気」の4つから影響を受けるといわれている。これらは、実際のキャリア教育

を進めていく中での、具体的ななかかわり方と方策に役立つものであろう。

#### (6) 自己効力を使ったキャリア教育評価

この考え方を進路決定に適応した進路決定自己効力という考え方が示され、ベッツとハケット (Betz, N. E. & Hackett, G. 1981) はさらにそれを測定する進路決定自己効力尺度 (テイラーとベッツ Taylor, K. M. & Betz, N. E. 1983) が開発された。日本でもこの尺度をもとに富安 (1995) が大学用の尺度を作成している。児童生徒用も開発が進んだ。三村&白石 (2003) は「中学生用進路決定自己効力尺度」を開発している。キャリア教育にもカウンセリングにも応用が利く尺度であろう。

### 9 キャリアガイダンス・カリキュラム実践例

ここでは、高等学校の実践例を中心にあげる。

高校におけるSGEを中心に展開したキャリア・ガイダンスの展開例			
	1年	2年	3年
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>{ 新入生オリエンテーション }</li> <li>「高校生活の創造」</li> <li>・ イエス, ノークイズ (校長, 担任など)</li> <li>・ 2人1組インタビュー</li> <li>・ 4人1組他己紹介</li> <li>・ サイコロトーク</li> <li>・ 共同絵画「人生時計」</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「卒業生の講話」 (全校生徒対象)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>{ オリエンテーション }</li> <li>「進路に向けて」</li> <li>{ 進路適性検査: 業者 }</li> <li>・ 学級開き</li> <li>「ふれあいのエクササイズ」</li> <li>・ 25才の私からの手紙</li> <li>・ ミニ内観</li> <li>・ すごろくトーク</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「卒業生の講話」 (全校生徒対象)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>{ オリエンテーション }</li> <li>「進路・卒業に向けて」</li> <li>・ アポイントのロールプレイ</li> <li>・ 「がんばり賞あげよつと」</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「模擬面接」</li> <li>{ インターン・シップ }</li> <li>「施設訪問・ボランティア」</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「卒業生の講話」 (全校生徒対象)</li> </ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気になる自画像</li> <li>・ 10年後のわたし</li> <li>・ エゴグラム</li> <li>・ リフレーミング</li> <li>{ ライフスキル }</li> <li>「薬物, エイズ, DV等」</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「進学情報, 資料の見方」</li> <li>・ 四面鏡</li> <li>{ インターン・シップ }</li> <li>「老人ホーム訪問」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>{ インターン・シップ }</li> <li>「幼稚園訪問」</li> <li>・ 金魚鉢</li> <li>「修学旅行に向けて」</li> <li>{ 修学旅行学習 }</li> <li>{ ライフスキル }</li> <li>「薬物, エイズ, DV等」</li> <li>{ キャリア・ガイダンス }</li> <li>「進学情報, 外部講師」</li> <li>{ 救命救急実習 }</li> <li>「AEDの扱いなど」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>{ ライフスキル }</li> <li>「社会人マナー」</li> <li>「カルト・消費者金融など」</li> <li>・ エゴグラム (1年の時との比較, 友人から見たエゴグラム)</li> <li>・ 論理療法のエクササイズ</li> <li>・ アサーションのエクササイズ</li> </ul>

三 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6人の人生</li> <li>・ ライフライン {防犯訓練}</li> <li>・ それってどんな自分？ (キャリア・アンカー) {キャリア・ガイダンス}</li> <li>「進学情報, コース選択」</li> <li>・ 1年間の棚卸し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラスト・フオール トラスト・サークル トラスト・ウオーク</li> <li>・ 私は私が好きです, なぜならば・・・私は〇〇が好きです, なぜならば・・・</li> <li>(自己受容・他者受容)</li> <li>・ 1年間の棚卸し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>{キャリア・ガイダンス}</li> <li>「社会人スキルアップ講習」</li> <li>・ Xさんからの手紙</li> <li>・ 別れの花束</li> <li>・ 1年間の棚卸し</li> </ul>
-------------	---	--	---

その他の実践例については、紙面の関係で具体例が挙げられないので、それぞれアクセスの仕方を提示しておいた。興味のある方は、さらに深めていただきたい。

また、小学校・中学校の取り組みの実践例は、文科省のホームページに詳しい。文科省国立教育政策研究所生徒指導研究センター発行の「自分に気付き、未来を築くキャリア教育～小学校におけるキャリア教育推進のために～」(2009年3月)はご覧いただくとよい。その骨子がコンパクトにまとめられている。また、仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿嶋研之助・池場望・下村英雄編著「教育再生のためのグランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開」にも実践例が豊富である。参考にしてほしい。

#### (1) 武南高等学校ガイダンスセンターの取り組み

昭和57年に教育相談部が独立し、ロングホームルームの中で、「心理教育」と「進路学習」をするプログラムを実施してきた。現在跡見学園女子大学教授の片野智治先生の開発であった。生徒がワークシートに記入したものをもとにしながら、友達同士でお互いのものを見せ合って、言葉をもろう形式になっていた。ガイダンス・カリキュラムと構成的グループエンカウンターのを取り入れた取組は、全国の高校の中でも早かったと思う。現在は「DOプラン」という形で、総合学習の時間を用いて「キャリア教育」を組み込んでいる。具体的に知りたい方は、武南高等学校ガイダンスルーム直通電話(048-431-0483)まで、FAXをいただければ、ご紹介したいと思う。

#### (2) 秋田県の雄物川高等学校「パスカルタイム」

「パスカルタイム」という時間を設けて、考え方や生き方について考える時間を作っている。雄物川高等学校のAさんは、武南高等学校でのホームルームにおける「進路学習」と構成的グループエンカウンターの体験をもとにしながら、本校をはるかにしのぐ、素晴らしい実践を重ねてきている。私が現在知るところでは、学校の教育課程の中に組み込まれた、本格的な「ガイダンス・カリキュラム」になっている。紙面の関係で具体例を紹介できないので、ホームページを見ていただきたい。具体的で生きている実践例を学ぶことができる。

### (3) 福岡県城南高校の「ドリカムプラン」

1995（平成7）年から始まった、福岡県城南高校の「ドリカムプラン」はご存知の方も多いのではないか。『生徒主体の進路学習ドリカムプランー福岡県立城南高等学校の試み』という本が出版されているので、一読することをお奨めしたい。「『ドリカムプラン』は単に体系的進路学習をさせるということではない。同校の進路指導全体、学校改革の理念そのものを意味する言葉になっているのだ」という言葉が重く響いてくる。

### (4) 神奈川県「かながわキャリア教育実践推進プラン」

神奈川県では、「かながわキャリア教育実践推進プラン」という取組をしている。平成17年度からは、高校3年間を見通した計画的なキャリア教育カリキュラムを研究実践してきた。当時のモデル校が統廃合になっているものもあり、その具体例がわかりにくいのが、現在ホームページ上に公開されているものもあるので、一見をお勧めしたい。出口指導だけではなく、「生徒の生きる力を育む」キャリア教育としての取組が始まっていることは、頼もしい限りである。

### (5) 神戸大学附属明石中学校（現神戸大学附属中等教育学校・明石校舎）

「明石キャリア発達支援カリキュラム」による学校づくりを推進した中学校である。渡辺三枝子先生監修の「教科でできるキャリア教育」（図書文化）は一読をお勧めしたい。明石中学校の先生方一人一人が「キャリア教育の意義と目的」を理解しようと話し合い、その共通理解を図ったことが伺える。ここに実践するための基本的な教員の姿勢が学べるだろう。教科教育を通じたキャリア教育は、教科の常識を変えるような実践である。

「キャリア教育を行ううえで教科学習は非常に大切なものです。教科というものは、人がよりよく生きるために必要とされる知恵などが長い時間の中で学問的に整理され、それらを人の発達段階に応じて文化的に身につけさせるものですから、当然といえば当然のことでしょう。ところが、こうした教科というものが生み出された背景は何なのか、そして、これらの教科がめざすところはどこなのか、などといったことは、意外と考えないものです。」（p 30）という指摘があった。学ぶことは生きることであり、そのための学力の向上なのだということを、教員は忘れがちになると気づかされた。教科教育は、一人一人の児童・生徒たちが、よりよく生きるためにある。各教科を通して、生きる基本を獲得していく過程なのだということだ。

キャリア教育としては、職場体験などが全国の中学校で実施されるようになってきているが、学校の日常性の中のキャリアとして、「教科教育であるキャリア教育」の意義は大きいと思う。以下、その一例を紹介する。

「国語」「社会」「数学」「理科」「音楽」「美術」「保健体育」「技術・家庭科」「英語」「道徳」「総合的な学習の時間」における実践例がある。特にその実践の



教科教育が、生徒自身が生きることを実感できるものであり、そのために「知識」としての学習が必要になることが理解できれば、学びがもっと豊かになるだろう。その学びそのものが、自分自身の生き方に直結することが「キャリア教育」と強調しているのが、本書である。

#### (6) 新潟県見附市名木野小学校

「教育再生のためのグランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開」の中から、小学校の実践例を紹介する。(p 138～140)

平成16年度(2004)から「くらしを高める人間力の育成」を目指した実践である。特に、生き方教育(キャリア教育)という観点から、小学生の段階から職業生活への理解を深め「将来の夢や目標を持つ」こと、社会生活に関心を持ち「社会参加の経験を積む」ことが必要と考え、「将来の自分づくりを支える活動」に力を入れている。

#### 「将来の自分づくりを支える活動」実践概要

(1) 総合的な学習の時間における将来の夢や希望を育てる「自分づくりの授業」	①各界で活躍する講師が語る「生き方講座」 ②身近な講師が語る「仕事について親子で語る会」
(2) 社会生活への関心を持たせる「社会参加の体験」	①役立つ自分を知り、共に生きる喜びを持たせる「ボランティア活動」 ②好きなこと、得意なことを広げる「講座体験」
(3) 「将来の自分づくりを支える活動」をサポートするオリジナルガイドブック	①「学び方ガイドブック」1・2・3 ②仕事ガイドブック ③ボランティアガイドブック
実践例 「親子で仕事を語る会 6年」 テーマ：“今“自分が大切にしなければならぬことを、家の人と一緒に考えよう	①会のねらいを子どもと保護者に説明する。 ②将来の夢、実現に必要なことを発表する。 ③家の人の仕事について語り合う。 ④話を聞く。次に仕事や「なりたい自分」についてインタビューし、アドバイスを受ける。 ⑤まとめる。心に残った言葉、「これからの自分」
子どもの感想と親の一言アドバイス	A子「漫画家になるためには、いろんな経験を活かすことが大切」という母の言葉が

	<p>心に残りました。確かにストーリーを考えるとときには、自分の経験を活かすといえることができるからです。(略)今日の会は母の仕事についてよくわかったし、自分の就きたい仕事についてじっくり話し合えたので、これからの自分のためになったと思いました。</p> <p>A子の母「今の夢をかなえるのはものすごく強い精神力と努力が必要だと思うけど、覚悟があるなら応援します。」</p>
--	---

小学校のキャリア教育は、これからの実践が待たれるであろう。筆者は高校において生徒の相談に応じているが、子どもたちから親から「将来何になりたいの?」といったような問をされてない子が増えているのを感じている。親の仕事についてもよく知らない生徒もいる。そういった実態から考えて、本実践のような「親子で仕事について語り合う」機会を設けることも必要になっているのではないかと感じる。

## 10 これからのキャリアガイダンスの提案～キャリアSGEガイダンス～

さて、最後に筆者が推進したいと思っている「キャリアSGE」について述べたい。

先に文科省が示した4つの能力を書いた。キャリア教育において身につけさせる力として(1)人間関係形成能力(2)情報活用能力(3)将来設計能力(4)意志決定能力が必要である、等が挙げられている。これらはすべて「能力」である。能力とは座学では身につかない。そこで、キャリアSGEを提案したい。キャリアSGEとは「SGE(構成的グループエンカウンター)の原理と技法に支えられた学校進路指導の一形態」(片野, 2001)である。SGEの原理と技法を積極的に取り入れ、新たなキャリアガイダンスの方法を創り出そうというものである。

エンカウンターの特徴について片野は次のように述べている。「エンカウンターの特徴の一つは、生徒がグループでエクササイズに取り組むところにある。エクササイズはサイコエジュケイショナルな(心理面の発達を促すような)課題のことである。主たる内容は他者とのかわり行動(対人行動)である。エクササイズのねらいは突きつめると6つである。自他理解、自己受容、自己表現・主張、感受性の促進、信頼体験、役割遂行である。また、エクササイズは誘発剤でもある。何を誘発するのか。それは自己開示である。自己開示とは人生の体験的事実(例:小学校五年生のとき、級友のいじめにあって三週間ほど学校を欠席しつづけた)、そして自分の思考(例:男は人前で涙を見せてはならぬ)や感情(例:みんなの話を聞いて

ていて安心しました)をありのままに表明することである。この自己開示はふれあいを誘発する。(中略)以上を要約すれば、エンカウンターはエクササイズの機能を生かして、グループを介してふれあい体験と自己発見を促すものである。エンカウターの第二の特徴は、シェアリングにある。これはエクササイズを体験して、感じたこと気づいたことを共有するという体験学習のことである。これによって、体験が意識化、言語化され、整理されて定着する。またメンバー(生徒)は十人十色である。ゆえに体験もみな違う。シェアリングは体験の違いを共有することになるので、メンバーは自分の思考を修正したり広げたりすることになる。ゆえにシェアリングは自己発見を促す。ここでいう自己発見とは、対人関係の心理、つまり感情と思考と行動に関する気づきのことである。第三は、リーダー(教師)が介入するという特徴である。介入とはリーダーによる割り込み指導のことである。つまり、学級の暖かな人間関係を基盤とした中で、キャリア教育に特化したエクササイズを用いながら、自己理解や他者理解を通して、本当の自分を発見していく、という教育技法である。この方法は、教科教育にも生かすことができ、現在その研究がすすんでいる。

進路の実現の第1は「自己理解」である。エンカウターの自己理解は、他者からのフィードバックがあるので、実感として受け入れやすい。また他者への思いも伝えることにより、仲間同士の連帯感が増す。そうすることによって、共に進路のことを考え合える仲間という意識も育ってくる。進路の問題は生徒自身にとって実に「重い問題」なのである。だから、先送りになってしまう。友人との会話に「進路のこと」が上ることも少なくなっている生徒の現状もある。ゆえに、楽しく、仲間とともに、体験を通して考え合えるSGEを用いたキャリアガイダンスは有効であろうと考えているのである。今後の研究で明らかにできることを期待しているところである。

キャリアガイダンス・カリキュラムの中核をなす教育技法として、キャリアSGEが広がることを願っている。

#### 《参考引用文献》

飯野哲朗「事例で読む 生き方を支える進路指導」図書文化, 2009

片野智治・桐村晋次・田島聡・川崎知己・橋本登・石黒康夫・別所康子編著「エンカウンターで進路指導が変わる～生き抜くためのあり方生き方教育」図書文化, 2001

片野智治「教師のためのエンカウンター入門」図書文化, 2009

國分康孝編集代表 木村 周・諸富祥彦・田島聡編集「進路指導と育てるカウンセリング あり方生き方を育むために」学級担任のための育てるカウンセリング全書6 図書文化, 1998

國分康孝・國分久子総編集 片野智治編集代表・朝日朋子・大友秀人・岡田弘・鹿嶋真弓・河村茂雄・品田笑子・田島聡・藤川章・吉田隆江編集「構成的グループ

- エンカウンター事典」図書文化, 2004
- 三村隆男「キャリア教育入門 その理論と実践のために」実業之日本社, 2004
- 日本キャリア教育学会編「キャリア教育概説」東洋館出版社, 2008
- 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿嶋研之助・池場望・下村英雄編著「教育再生のための  
グランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開」社団法人雇用問題研究会, 2008
- 八並光俊・國分康孝編集「新生徒指導ガイド～開発・予防・解決的な教育モデルに」  
図書文化, 2008
- 吉田辰雄・篠 翰「進路指導・キャリア教育の理論と実践」日本文化化学社, 2007
- 渡辺三枝子編著「新版キャリアの心理学」ナカニシヤ出版, 2007
- 渡辺三枝子監修, 神戸大学附属明石中学校著「教科でできるキャリア教育～『明石  
キャリア発達支援カリキュラム』による～」図書文化, 2009